



〔海の状況(3/21~4/20)〕

神子表面水温……期間の中頃に“かなり低め(平年より1.0~1.5℃程度低め)”となったほかは、“平年並み(平年の±0.5℃)”から“やや低め(平年より0.5~1.0℃程度低め)”で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間全体をとおして“やや低め”から“かなり低め”で推移した(図2)。

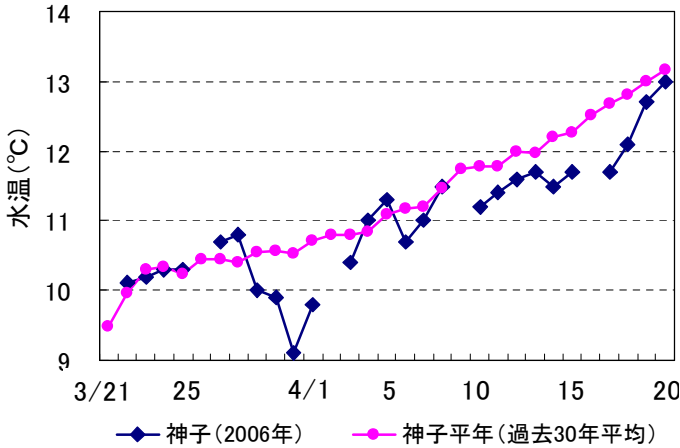


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

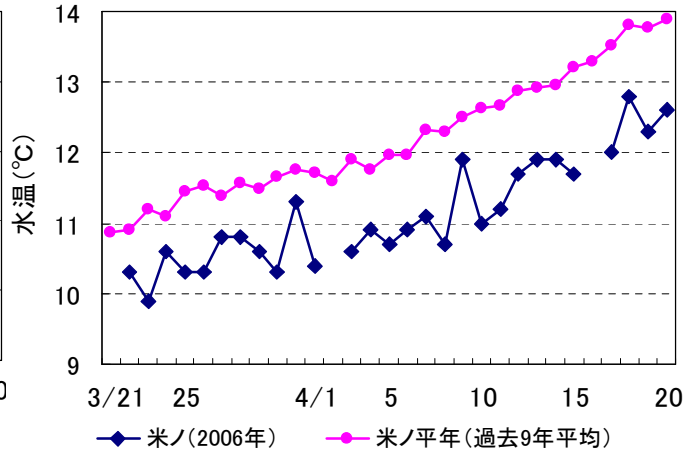


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……若狭湾沖には、山陰若狭沖冷水域の張り出しがみられたほか、沿岸域には11℃台の水域が広がっていた。

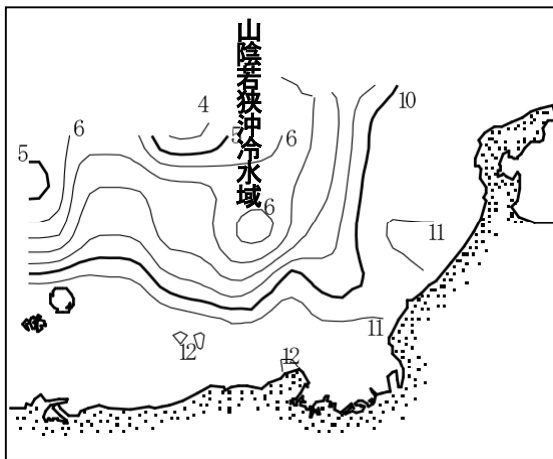


図3 2006年4月上旬の100m深水温

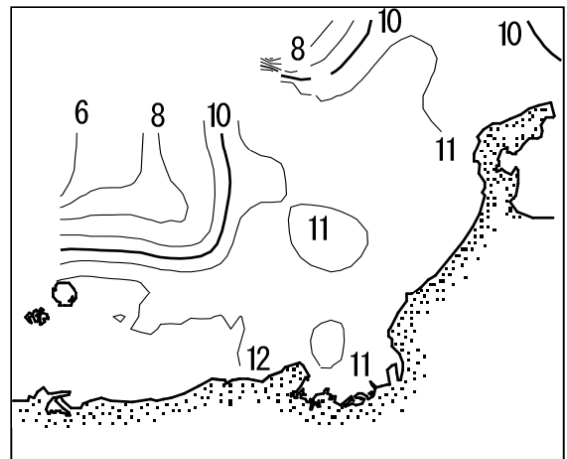


図4 2005年4月上旬の100m深水温

平成18年度第1回日本海海況予報

日本海区水産研究所が、2006年4月~6月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介し
ます。

- 丹後半島沖にある暖水域は、北東に移動した後、能登半島沖の暖水域と一つにまとまって停滞するでしょう。
- 山陰・若狭沖冷水域の規模は大きく接岸しており、今後の張り出しは、やや強めで推移するでしょう。
- 対馬暖流の表面水温は、平年並み~やや低めで経過してきており、今後は平年並みで推移するでしょう。
- 対馬暖流50m深水温は、平年並みで経過してきており、今後は平年並みで推移するでしょう。

(松宮由太佳)

〔漁の模様〕

2006年3月の県内の総水揚量は761tで、2005年同月を103t上回った。ブリ類(2006年;0.5t, 2005年;8t、以下同じ)、ハタハタ(84t, 161t)、ヤリイカ(2t, 12t)、タコ類(17t, 26t)等は下回ったものの、サワラ(29t, 8t)、アカガレイ(163t, 117t)、その他カレイ(60t, 41t)、ホタルイカ(82t, 22t)、水ガニ(62t, 39t)等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……スルメイカ、ヤリイカ等は下回ったものの、サバ類、サワラ、スズキ等は上回り、全体で前年を20t上回った。

底びき網 ……ハタハタ等は下回ったものの、アカガレイ、ホタルイカ、水ガニ等は上回り、全体で前年を66t上回った。

釣り・他 ……ブリ類、ヤリイカ、コウイカ、タコ類等は下回ったものの、アジ類 [アオアジ主体]、サバ類、サワラ、マダイ、スズキ、その他カレイ、メバル類、その他エビ [アミエビ主体] 等は上回り、全体で前年を17t上回った。

〔県内主要漁業の3月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
アジ類	17,169	17,152	31,471
サバ類	4,131	531	2,838
マグロ類	294	152	95
ブリ類	140	427	3,150
サワラ	24,740	7,702	5,340
サケ、マス	1,237	1,562	1,555
マダイ	55	313	250
スズキ	11,151	2,432	4,485
フグ類	2,131	909	1,894
メバル類	906	576	453
スルメイカ	8,241	12,620	10,277
ヤリイカ	779	5,094	3,719
コウイカ	527	796	1,476
タコ類	721	519	541
その他	7,253	8,780	24,969
合計	79,475	59,565	92,517

底びき網のつぎ			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
タコ類	4,969	8,767	7,381
ズワイガニ	23,115	18,551	17,852
水ガニ	61,961	38,593	43,392
アカエビ	25,075	25,011	22,638
その他エビ	7,891	4,743	5,732
その他	35,587	34,857	45,269
合計	535,177	469,003	531,998

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
アジ類	3,589	362	3,267
サバ類	4,848	81	401
ブリ類	348	7,966	16,134
サワラ	4,631	740	233
マダイ	2,746	1,918	3,832
キダイ	644	379	351
アマダイ	2,398	2,106	2,187
スズキ	3,023	1,248	2,005
ヒラメ	5,989	6,287	5,254
その他カレイ	27,235	12,593	12,417
アナゴ	1,636	2,684	4,650
メバル類	7,404	5,163	10,273
スルメイカ	3,049	2,257	13,782
ヤリイカ	687	6,642	11,326
コウイカ	1,031	4,347	4,653
タコ類	11,787	16,714	18,004
その他エビ	8,118	3,010	3,976
その他	57,145	54,408	57,877
合計	146,308	128,907	170,622

底びき網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
マダイ	734	172	1,007
キダイ	1,385	936	1,578
スズキ	2,251	1,781	2,255
ヒラメ	3,076	2,194	1,874
アカガレイ	162,991	117,196	111,053
その他カレイ	31,946	27,948	40,683
アナゴ	2,456	1,309	4,102
ハタハタ	84,164	160,883	87,190
メバル類	1,187	612	710
ニギス	1,882	1,043	1,934
ケンサキイカ	1,738	1,635	2,584
ヤリイカ	347	513	1,637
ホタルイカ	82,424	22,259	133,125

総計	2006年	2005年	96-05平均
	760,959	657,475	800,812

〔近府県の漁模様〕

(3月下旬から4月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… カタクチイワシ173kg、スルメイカ96kg、アジ36kg、サワラ19kg
 底曳網 …… ハタハタ170kg、ニギス121kg、アカガレイ85kg、ホタルイカ20kg
 京都府 …… 定置網 …… マアジ9.5t、カタクチイワシ2.3t、サバ2.1t、スルメイカ1.5t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ1,117kg、カタクチイワシ53kg、ウルメイワシ21kg、スズキ20kg
 鳥取県 …… まき網 …… カタクチ28.6t、マアジ5.3t、ウルメ4.6t、ブリ類0.4t、マサバ0.4t
 (松宮 由太佳)

2005年度(H17)漁期における「越前がに」(ズワイガニ)の漁獲量について

3月20日に漁期が終了した「越前がに」の漁獲量は、福井県機船底曳網漁業協同組合の集計によると、前漁期の437トンを上回る589トン(35%増)となりました(表1)。過去30年間では、600tを超えた2001、2002年度漁期に次ぐ漁獲量となり、漁業者の皆様が実践している資源管理の成果と考えられました(図1)。

表1 銘柄別の漁獲量

操業月	月別漁獲量 (トン)				前年比			
	カニ計	ズワイ	ミズガニ	セイコ	カニ計	ズワイ	ミズガニ	セイコ
2005年11月	200	68	-	131	1.23	0.77	-	1.75
2005年12月	74	17	33	25	0.89	0.40	1.59	1.25
2006年1月	135	35	90	10	1.70	1.52	1.76	1.94
2006年2月	95	31	64	-	1.78	1.69	1.82	-
2006年3月	84	23	61	-	1.48	1.25	1.59	-
漁期計	589	175	248	166	1.35	0.91	1.70	1.66

銘柄別では、ズワイ(雄の堅ガニ)が175トン(前漁期191トンの9%減)、ミズガニ(脱皮後間もない雄ガニ)が248トン(前漁期145トンの70%増)で、雄ガニとしては423トン(前漁期337トンの26%増)でした。また、セイコ(雌ガニ)は166トン(前漁期100トンの66%増)でした。

12月までは荒天のため操業日数が少なかったものの、1月以降は順調に出漁することができ、延べ操業日数は前漁期並の4,354日でした(表2)。

漁獲量増加の要因の一つとしては、トロール網調査でみられた卓越年級群と思われる新規加入群が漁獲対象となったことが考えられます。さらに、ミズガニは甲幅10cm以下採捕禁止(従来は9センチ以下採捕禁止:過去のデータから9~10cmの小型個体の漁獲量はミズガニ全体の約2割)の自主規制が前漁期から実施されており、その保護されたミズガニが漁獲対象となったことが考えられました。

CPUE(1日1隻当たり漁獲量)は135.2kg(前漁期100.7kgの34%増)でした。銘柄別では、ズワイが40.2kg(前漁期44.1kgの9%減)、ミズガニが82.0kg(前漁期61.4kgの34%増)、セイコが85.1kg(前漁期42.3kgの101%増)となり、漁獲量と同様にミズガニとセイコで高い値となりました。

(家接直人)

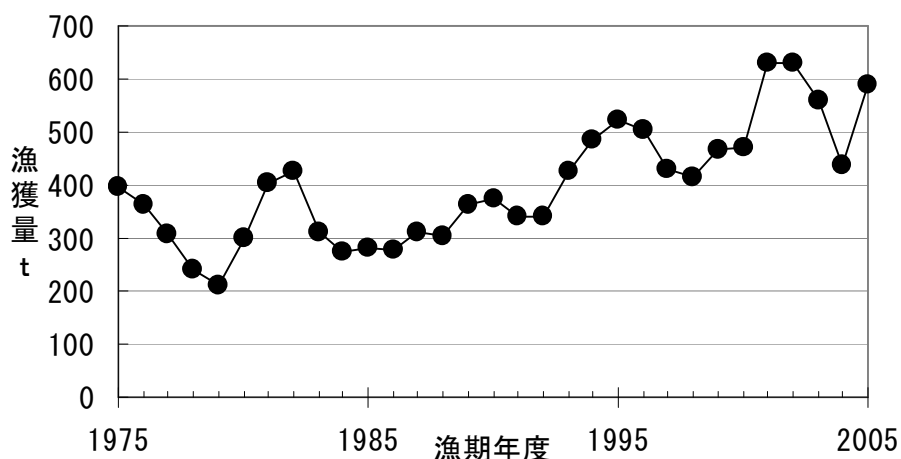


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

表2 延べ操業日数

操業月	延操業日数	前年比
2005年11月	1,078	0.89
2005年12月	673	0.68
2006年1月	961	1.32
2006年2月	860	1.33
2006年3月	782	1.03
漁期計	4,354	1.00

アユは海のどこにいるのか：アユの生息場所の調査

水産試験場では、平成17年度から内水面総合センターと共同でアユの生態調査を行っています。アユは秋に川で産卵し、孵化した仔魚は海へと流されます。アユ仔魚は翌年の春まで海で生活し、体長6 cm から8 cm に成長した稚魚が川へ遡上してきます。

九頭竜川は福井県の代表的アユ漁場であり、坂井市で日本海に注いでいます。これまで、福井県では海で生活している時期のアユの生態について明らかになっていませんでした。そこで、平成17年度は坂井市三国町沿岸でアユ仔魚の採集を行い、九頭竜川から海へ下ったアユ仔魚の分布状況を調査しました。

【調査方法】

水産試験場所属の調査船「若潮丸」(19t)により10月から11月の間に3回の表層曳調査を行いました。アユ仔魚の採集には、稚魚ネット(口径80 cm、側長3.3 m、網目0.3 mm)を用いました。また、鷹巣海水浴場と三国海水浴場でサーフネット(高さ1.3 m、幅6 m、網目1.1 mm、中央部は袋状)を用いて水深約0.8 m～1.2 mの碎波帯を汀線に沿って曳網し、仔魚の採集を行いました。この調査(碎波帯調査)は、11月から2月の間に3回行いました。

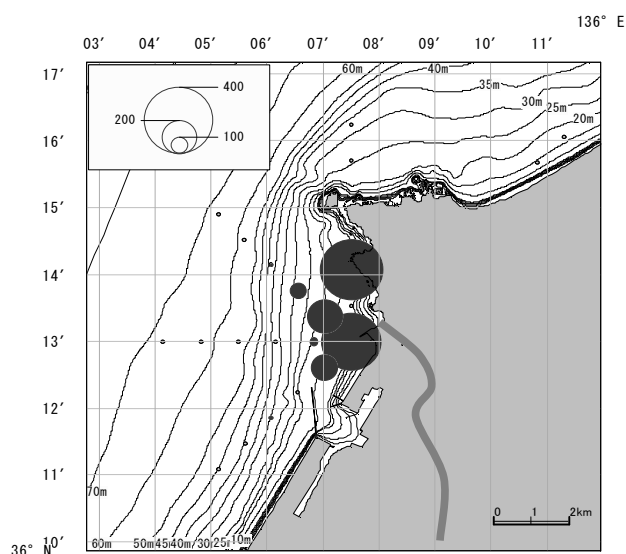
【結果】

表層曳調査により、体長6～7 mmの多くのアユ仔魚が採集されました。採集された仔魚は河口から3 km以内の海域に多く分布していました(図)。これらの海域は、九頭竜川の影響を強く受けており、周辺海域に比べて塩分濃度が低い傾向が見られました。

碎波帯調査により、体長20 mm以上の仔魚が採集されました。11月の調査では多くのアユ仔魚が採集されましたが、2月の調査では、全く採集されませんでした。

今回の調査結果から、三国沿岸に生息するアユ仔魚の分布場所の一部が明らかとなりました。秋に孵化したアユ仔魚は、川の流れに乗って海に拡散し、体長が20 mm前後になると鷹巣海水浴場や三国海水浴場に現れるようです。しかし、2月の碎波帯調査の時には仔魚が全く採集されなかったことから、この時期以降の分布場所は不明のままとなっています。今後も調査を継続し、ふくい生まれのアユが海のどこで生活しているのかを明らかにしていきたいと思えます。

(仲野 大地)



水産試験場職員の異動について(平成18年4月1日付け)

転出者〔新所属〕		転入者〔旧所属〕	
海洋資源部	河野 展久〔水産課〕	海洋資源部	前田 英章〔水産課〕
浅海資源部	成田 秀彦 〔農業試験場 食品加工研究所〕	浅海資源部	川代 雅和〔水産課〕
福井丸	川端 昭弘〔水産課 若越〕	福井丸	松見 金幸〔水産課 若越〕